

診療科研修コース申請書
研修コース名【 外科コース 】

1. 診療科(専門領域)

外科(消化器外科、乳腺内分泌外科、胸部外科、小児外科)

2. コースの概要

全ての専門領域に必要な外科一般の基礎、診断、手術手技、術前術後管理を学び、各専門分野への関心が高まれば、消化器外科(開腹手術、鏡視下手術、内視鏡手術) 胸部外科、乳腺内分泌外科、小児外科等の、専門分野への専門医資格取得へ向けた重点的指導を行う。

3. 取得資格

診療科別治療医 (3年)、診療科別治療医 (5年)

学会認定の専門医取得も可能

外科学会：修練登録より4年で予備試験、5年で認定試験、所定手術件数が必要

消化器外科学会：修練施設で修練5年以上、所定手術件数が必要

4. 長期目標

一般外科、消化器外科に必要な基礎知識、手技の習得、専門分野への興味が定まれば各専門分野への重点的教育を行う。(胸部外科、小児外科、乳腺内分泌外科)

5. 取得手技

一般外科基礎：切開、縫合、ドレナージ法、ヘルニア手術、感染症治療。

消化器外科基礎：開腹、胆嚢摘出術、胃切除術、腸切除術&吻合術、全身栄養管理法：経腸栄養法、経静脈栄養法(IVH)、癌化学療法、内視鏡検査(GIF、CF等は消化器内科で、院内研修も可能) 肝胆膵の検査、治療手技の習得、(ERCP、EST、PTC、PTCD)。

胸部外科：胸腔穿刺術、開胸術、鏡視下ブラ切除、肺切除術。

乳腺内分泌外科：乳腺疾患の診断法、乳癌手術法(乳房温存センチネルナビゲーション手術)、小児外科手術。

麻酔科手技(麻酔科への院内研修も可能)。

6. 研修期間

3年(2年延長も可、診療科診療医 の資格を取得)

7. 募集人数

1~2名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <2007年1月~12月>

主要疾患	入院数(年間)	経験目標症例数(3年間)
胃癌	70	20
食道癌	5	3
結腸癌	90	20
直腸癌	40	10
イレウス	44	10
膵癌	15	2
肝細胞癌	60	10

胆石症	9 4	2 0
乳癌	6 0	3 0
甲状腺癌	5	1 0
ソケイヘルニア	6 5	2 0
急性虫垂炎	5 7	2 0
下肢静脈瘤	1 7	2 0
肺癌、気胸	7 0	1 5

手術	件数(年間)	経験目標件数(3年間)
胃切除術	3 5	1 0
食道手術	3	3
結腸切除術	4 0	2 0
直腸切除術	2 2	5
イレウス手術	1 5	1 0
胆嚢摘出術	6 8	2 0
肝切除術	2 8	5
臍頭十二指腸切除術	3	3
人工肛門造設術	2 1	1 0
乳癌手術	3 9	3 0
ヘルニア手術	6 4	2 0
虫垂切除術	4 5	2 0
下肢静脈瘤手術	1 7	2 0
胸腔鏡下肺切除	4 2	1 0

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 1 0 名、非常勤 2 名
 診療科研修の指導にあたる医師 1 0 名
 主として研修指導にあたる医師の氏名 堤 宣翁
 " 診療科経験年数 2 4 年

10. コンセプト

外科診断、治療手技の基本的な手技を習得する。
 専門性獲得へ向けて、個人の将来を考えた、柔軟かつ明解な研修プログラムを用意する。
 全人的視点に立ち、パラメディカルと協力して、良好な患者関係を創造できる医師を養成する。
 医療の質の向上へ向けた研究を実践する。

11. 一般目標

他科との連携をはかり、併存疾患の周術期管理を学ぶ。
 外科、消化器外科の基本手技を習得する。
 医療安全、パス、インフォームドコンセント等に精通してパラメディカルと協力して、安全かつ効率的な医療を提供できる医師を養成する。

12. 関連領域の研修に関して

施設内での研修 可能
 施設外との交流研修 可能
 研修領域の決定

本人の臨床経験や将来の希望に応じて、柔軟かつ的確な研修プログラムを提供する。

13. 共通領域研修について

消化器病センターカンファレンス(週1回)

抄読会(週1回)

消化器カンファレンス(月1回)

CPCカンファレンス(適宜)

機構講演会(年4回)

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 **外科基礎プログラム** 】

1. 診療科(専門領域)

外科(基礎)

2. 研修期間

1年

3. 募集人数

1名

4. 短期目標

一般外科、消化器外科、診断の基本手技を習得する。
 外科手術基本手技、術前術後管理を習得する。

5. 短期取得手技

輸液管理、IVH、経腸栄養法、胃瘻造設、
 イレウスの診断治療(イレウス管挿入、癒着剥離術、腸切除&吻合術、人工肛門造設術)、
 ヘルニア手術(ソケイヘルニア、大腿ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア)、
 腹膜炎手術(急性虫垂炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、下部消化管穿孔)、
 急性胆嚢炎治療(PTGBD, 腹腔鏡下胆嚢摘出術、開腹胆嚢摘出術)、
 閉塞性黄疸総胆管結石症治療(ERCP、EST載石、開腹総胆管切開ドレナージ)、
 胃切除術、結腸切除術、直腸切除術、胸腔鏡手術、開胸手術。
 乳腺手術、甲状腺手術。
 下肢静脈瘤手術。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <2007年1月~12月>

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(3年間)
胃癌	70	20
食道癌	5	3
結腸癌	90	20
直腸癌	40	10
イレウス	44	10
膵癌	15	2
肝細胞癌	60	10
胆石症	94	20
乳癌	60	30
甲状腺癌	5	10
ソケイヘルニア	65	20
急性虫垂炎	57	20
下肢静脈瘤	17	20
肺癌、気胸	70	15

手術	件数(年間)	目標件数(3年間)
胃切除術	35	10
食道手術	3	3
結腸切除術	40	20
直腸切除術	22	5
イレウス手術	15	10
胆嚢摘出術	68	20
肝切除術	28	5
膵頭十二指腸切除術	3	3
人工肛門造設術	21	10
乳癌手術	39	30
ヘルニア手術	64	20
虫垂切除術	45	20
下肢静脈瘤手術	17	20
胸腔鏡下肺切除	42	10

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9 名、非常勤 2 名
 診療科研修の指導にあたる医師 9 名
 主として研修指導にあたる医師の氏名 堤 宣翁
 " 診療科経験年数 24 年

8. コンセプト

消化器外科、一般外科の基本的、診断、治療手技を習得する。
 専門外科へ向けた修練を行う。

9. 共通領域研修について

消化器病センターカンファレンス(週1回)
 外科カンファレンス(週1回)
 外科抄読会(週1回)
 消化器カンファレンス(月1回)
 CPCカンファレンス(適宜)
 地域研修センター講演会(年4回)

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 消化器外科専門プログラム 】

1. 診療科(専門領域)

消化器外科

2. 研修期間

1～2年

3. 募集人数

1名

4. 短期目標

消化器外科、診断、治療手技の習得。

5. 短期取得手技

肝胆膵の検査、治療手技：ERCP、EST、内視鏡下総胆管結石載石、PTCD、開腹胆摘、腹腔鏡下胆摘、肝切除術、脾臓摘出術、膵体尾部切除術、膵頭十二指腸切除術。

胃十二指腸、小腸：幽門側胃切除術、胃全摘術、胃空腸吻合術、腹膜炎手術、イレウス手術、腹腔鏡下胃切除術(LADG)。

下部消化管：結腸切除術、直腸切除術、直腸切断術、人工肛門造設術、腹腔鏡下結腸切除術。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <2007年1月～12月>

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(2年間)
胃癌	70	20
食道癌	5	3
結腸癌	90	20
直腸癌	40	10
イレウス	44	10
膵癌	15	2
肝細胞癌	60	10
胆石症	94	20
ソケイヘルニア	65	20
急性虫垂炎	57	20

手術	件数(年間)	目標件数(2年間)
胃切除術	35	10
食道手術	3	3
結腸切除術	40	20
直腸切除術	22	5
イレウス手術	15	10
胆嚢摘出術	68	20
肝切除術	28	5
膵頭十二指腸切除術	3	3
人工肛門増設術	21	10

ヘルニア手術	64	20
虫垂切除術	45	20

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9 名、非常勤 0 名
 診療科研修の指導にあたる医師 9 名
 主として研修指導にあたる医師の氏名 品川 裕治
 " 診療科経験年数 25 年

8. コンセプト

消化器外科の診断、治療手技を習得する。
 消化器外科専門医、外科専門医資格取得へ向けた修練を行う。

9. 共通領域研修について

消化器病センターカンファレンス（週1回）
 外科カンファレンス（週1回）
 外科抄読会（週1回）
 消化器カンファレンス（月1回）
 CPCカンファレンス（適宜）
 地域研修センター講演会（年4回）
 プライマリー研究会（年4回）

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 **乳腺、内分泌外科専門プログラム** 】

1. 診療科(専門領域)

外科(乳腺、内分泌外科)

2. 研修期間

1～2年

3. 募集人数

1名

4. 短期目標

乳腺疾患、甲状腺疾患を中心とした、診断、治療の実際を学ぶ。

5. 短期取得手技

診断： 超音波検査の実際

穿刺細胞診(FNA) 針生検(CNB)の手技

局麻下切除生検の手技

乳管造影検査の実際

治療： 乳癌手術 (乳房切除術、乳房温存術、センチネルリンパ節生検)

乳房再建術の基本

甲状腺良性腫瘍、甲状腺癌手術

甲状腺機能亢進症の手術

副甲状腺機能亢進症の手術

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <2007年1月～12月>

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(1年間)
乳癌	70	50
乳腺良性疾患	30	20
甲状腺癌	10	10
甲状腺良性疾患	5	5
副甲状腺疾患	1	1

手術	件数(年間)	目標件数(1年間)
乳癌手術	30	30
乳腺良性腫瘍手術	9	5
甲状腺癌手術	5	5
副甲状腺手術	0	2

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9 名、非常勤 2 名

診療科研修の指導にあたる医師 9 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 堤 宣翁

” 診療科経験年数 24 年

8. コンセプト

乳腺、甲状腺疾患の診断から治療までを系統的に研修する。

9. 共通領域研修について

消化器病センターカンファレンス（週1回）

外科カンファレンス（週1回）

外科抄読会（週1回）

消化器症例カンファレンス（月1回）

CPCカンファレンス（適宜）

機構講演会（年4回）

地域講演会（年数回）

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 胸部外科専門プログラム 】

1. 診療科(専門領域)

外科(胸部外科)

2. 研修期間

6ヶ月～1年

3. 募集人数

1名

4. 短期目標

術前呼吸機能評価できる。
 胸部外科手術の術後管理ができる。
 開胸手術、鏡視下手術等の基本手技を学ぶ。

5. 短期取得手技

開胸、閉胸
 胸腔穿刺
 胸腔ドレーン挿入、抜去
 胸腔下手術、ポート挿入、抜去

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <2007年1月～12月>

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(1年間)
気胸	24	10
膿胸	3	3
胸部外傷	3	3
胸膜中皮腫	4	2
胸壁膿瘍	2	2
縦隔腫瘍	10	1
原発性肺癌	20	5
転移性肺癌	10	5

手術	件数(年間)	目標件数(1年間)
胸腔鏡下ブラ切除	24	5
胸腔鏡下肺葉切除	10	2
開胸肺葉切除	20	5

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9 名、非常勤 2 名
 診療科研修の指導にあたる医師 3 名
 主として研修指導にあたる医師の氏名 堤 宣翁
 " 診療科経験年数 24 年

8. コンセプト

胸部外科疾患の診断、治療手技を習得する。

胸部外科手術の基本手技を習得し、周術期管理ができるようになる。

人工呼吸器の使用に習熟する。

胸部外科医としての基本を習得する。

9. 共通領域研修について

消化器病センターカンファレンス（週1回）

外科カンファレンス（週1回）

外科抄読会（週1回）

消化器カンファレンス（月1回）

C P Cカンファレンス（適宜）

地域研修センター講演会（年4回）

プライマリー研究会（年4回）

診療科研修プログラム申請書
研修プログラム名【 小児外科専門プログラム 】

1. 診療科(専門領域)

外科(小児外科)

2. 研修期間

6ヶ月

3. 募集人数

1人

4. 短期目標

当院プログラム、到達経験目標に従い、外科系項目中の小児外科領域を小児外科担当医により指導する。

5. 短期取得手技

小児外科的疾患の診断、検査。
小児の採血、点滴、小外科処置。
小児・新生児の周術期管理(輸液、栄養)。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(6ヵ月間)
鼠径ヘルニア・精系水腫	40	15
停留精巣	5	3
急性虫垂炎	30	10
臍ヘルニア	3	1
新生児疾患	6	2
肝胆道系疾患	4	2

手術	件数(年間)	目標件数(6ヵ月間)
鼠径ヘルニア	40	15
急性虫垂炎	29	10
臍ヘルニア	1	1
胃瘻腸瘻造設術	4	2
新生児外科	5	2
肝胆道系疾患	3	1

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 1 名、非常勤 0 名

診療科研修の指導にあたる医師 1 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 生野 久美子
" 診療科経験年数 19 年

8. コンセプト

小児に日常多くみられる外科疾患についての理解を深め、適切な初期診療が行えるようにする。

9. 共通領域研修について

消化器病センターカンファレンス（週1回）

外科カンファレンス（週1回）

外科抄読会（週1回）

消化器カンファレンス（月1回）

CPCカンファレンス（適宜）

地域研修センター講演会（年4回）

プライマリー研究会（年4回）